

新刊出版記念企画

鳴海周平の全国ぶらり旅

ここからだの健幸対談

特別コラボ 後編



世界各地への「祈りの旅」をご一緒いただいている滝沢泰平さんと、エヌ・ピュア代表・鳴海周平の共著『目覚めた魂』出版を記念して、「ぶらり旅」と「健幸対談」のコラボ企画・後編をお届けします。

『目覚めた魂』対談ページから抜粋してご紹介します。

祈りの旅

(鳥海山・八ヶ岳)編

ゲスト 滝沢泰平さん

「祈りの旅」がひも解く新しい時代

鳴海周平(以下 鳴海)

本書で泰平さんが紹介してくれた「半農半X」や「あ・うんユニット」「大麻」「キブツ」などは、これからの地球にとつてとても大切なキーワードになると思います。そうした「目にみえるもの」と対を成すのが「目にみえない世界」。

昨年の夏至からスタートした「祈りの旅」は「目にみえない世界」に働きかける一環です。

滝沢泰平さん(以下 滝沢)

目にみえない世界は、目にみえる世界の「半歩先」を行っていると言われますから、地球の未来図を思い描いて歩く「祈りの旅」には、とても大きな意味があると思います。

元・高野僧の長典男さんと、高麗加緒里さん、鳴海さんと僕の4人が、訪れた旅先で、それぞれの役割を淡々とこなしている感じですよ。

鳴海 訪れた場所の「癒し」と「調整」をエネルギー的な面からおこなうのが「祈りの旅」の大きな目的ですが、自分の場合は、これまで携わってきたヒーリングの要領で、ただひたすらその場所にエネルギーを送っています。

すると、人にヒーリングをしている時と同じように、そこが明るくなったり、軽くなったりするんですね。場所によっては、八芒星などのマークが出てくる場合もあります。こうした「サイン」が出ると、「あ、ここでの自分の役割は完了かな」と捉えているんです。

滝沢 長典男さんは、パートナーの高麗加緒里さんが巫女役となつて受け取った情報を、審神者となつて解読してくれるので、いま、その場でどんな変化が起きているのがよくわかりますよね。

鳴海 長さんは、審神者をしながら、主に密教の印と真言を用いたおさめ方をしますね。

それぞれのメンバーが働きかけている層を大きな観点から眺めて「自分はエネルギーの表層的な部分、中間の層は鳴海さん、土台に近い層は加緒里さん」と教えてくれたことがあります。泰平さんは、指揮者のように「全体を統轄する役」だそうです。

長さんのみたビジョンによると、過去生では、長さんと自分がライバル同士の陰陽師で、加緒里さんが中間派の陰陽師、泰平さんは朝廷側の公家さんだったそうですから、異なる派の陰陽師を、公家の泰平さんが率いているイメージにも重なりますね。

水戸黄門に例えると、泰平さんが黄門様で、自分と長さんがスケさん、カクさん。加緒里さんが、由美かおる(笑)。

滝沢 わかりやすいような、わかりにくいような……。(笑)

でも、過去生で異なる立場にあった者同士が、時代を超えて手を携えているのは、「ひな形」という観点から捉えても、大切な意味を持つているように思います。祈りの旅は、「融合・統合・調和」のひな形づくりでもあるのでしょうか。



元・高野僧の長典男さん。「祈りの旅」においては、審神者、みえないものをみる達人として、主に密教の印や真言を用いた方法で、目にみえない世界に働きかけています。

鳴海 たしかに、多い時は1ヶ月のうち20日間も一緒にいるのに、一度もケンカをしたことがありませんね。これも「スイーツ男子」という共通点のおかげかな(笑)。

スイーツと言えば、「場」のエネルギーも、ミルフィーユの様な多層構造になっていると思うんです。

祈りを捧げるといえるのは、そのどこかの層に働きかけるということ。

人それぞれに、「ご縁の深い」「エネルギーの層」があつて、その層に何らかの変化を起こしているとも考えられます。

滝沢 長さん曰く「このメンバーで祈りを捧げると、良い化学反応が起こりやすい」そうです。きっと、それぞれとご縁のある「エネルギーの層」が、絶妙なバランスなのでしょね。

古来から、さまざまな場所で、いろいろな人たちが捧げてきた祈りもまた、それぞれにご縁があるエネルギーの層へ働きかけてきたと考えられます。

目に見える世界で、ここ数年続いている地球規模の変化は、こうした目にみえない世界の化学反応とも大きく関係しているのかもしれないですね。



「祈りの旅」の由美かおること、高麗加緒里さん。「祈りの旅」においては、紅一点の巫女として、さまざまな存在からのメッセージを受け取る役を担っています。

鳴海 場の癒し、調整と共に大切なのが、その地域にご縁のある方々のエネルギーだと思っんです。

訪れた場所です。講演会を行なっているのも、同じ空間で想いを共有してもらおうことで、祈りを捧げた「場」のエネルギーと、その地域に暮らす「人」のエネルギーという「車の両輪」が調うイメージが最初にあつたからでした。

滝沢 講演会に足を運んでいただいたり、ご縁のある場所で祈りを捧げたりしていただくのも、「新しい時代」を迎えるために、二人一人ができることなのかもしれませぬ。

自然界の摂理は「神」そのもの

滝沢 祈りの旅では、各地でいろいろな気づきをいただきますが、昨年7月に訪れた鳥海山もまた、とても貴重な体験でした。

大物忌神社という出羽国「宮へお参りした時に、なんて表現したらよいのかわからないのですが、とにかく不思議な感覚になつたんです。そうしたら、鳴海さんも長さんも「あれ？ここ、全然反応がないね……。」と。

鳴海 そうそう、長さんは「何のメッセージも感じない」と言うし、自分も何のビジョンも浮かんでこない。そんなことは滅多にないので、あの時はお互い顔を見合わせながら「……？」という感じでした(笑)。

ただ、ざーっと奥の方に、鳥海山にある

一の滝、二の滝のイメージがあつたんです。そこから「社の背景にあるもの(＝本質)は何か？」ということを問われているような感覚がありました。

滝沢 人間はどうしても、お社のような「目に見えるもの」に意識を向けてしまいがちですが、あれは本来、人間が造つた「建物」であつて、祈りの対象ではないんですよ。

「社の背景にあるもの」とは、本来の「祈りの対象となるべきもの」で、神社のお社だけに意識が向いては本質に気づけない、というメッセージだったように思います。

長さんが以前、「神社のお社は、もともとと食料貯蔵庫だった」ということを教えてくれましたが、祈りの対象は、私たちが生かしてくれている自然界そのもの、ということなんですよ。



大きな気づきをいただいた、山形県と秋田県に跨がる鳥海山。



鳴海 泰平さんも本書で述べていたように、古代の人たちにとって生きることは、

食べものを生産することであって、そのために必要な自然環境こそが「神」そのものだったと言えます。作物を育てる豊かな土壌の源は、山から運ばれ、動植物を介してまた土に還っていく。さらに、その栄養素や情報を運ぶ水もまた雲や雨となつて地球を循環する……。

鳥海山が教えてくれたのは、そうした本質をわかつたうえで捧げる祈りは、より多くのエネルギー層に想いを届けることができる、ということでもあったのではないのでしょうか。

滝沢 自然界を構成するありとあらゆるものを「八百万の神々」とし、信仰の対象にしてきた日本人の考え方そのものですね。古くから「神道には教えがない」と言われてきたのも納得です。

鳴海 そもそも「神道」という名前すらなくて、仏教が日本に入ってきた時、違いを表現するために「とりあえず、神道って名前にしようか」といった感じで名づけられたとか。

いい感じの緩さですよね(笑)。自然そのものが神であるなら、人間が頭で考えるような「こだわり」は少ない方がいいのかもしれないね。

滝沢 第3章で「キブツ」というイスラエルの農村コミュニティを紹介しましたが、「ユダヤ教(旧約聖書)」の信仰を土台にし、民族としての絆を強く持つ現在のスタイルだと、日本人には「こだわり」が多いように感じてしまうかもしれません。

縄文や江戸時代に代表されるような「自然の循環を大事にする文化」「自然界への畏敬の想い」といった、宗教の枠にも「こだわらない」日本人ならではの発想は、

「キブツ」がより普遍的なものになって、新しい時代の礎となっていく可能性を高めてくれるように思います。

過渡期に必要なのは、心身の「波動」を高めること

滝沢 2014年に初めてイスラエルへ行った時、想像していたよりも食文化が豊富で驚きました。ホテルのバイキングでは、国土の60%が砂漠地帯とはとても思えないほど、新鮮な野菜がたくさんで、しかも、無農薬、無化学肥料の自然栽培ものが多いんです。おかげで、イスラエル滞在中は八ヶ岳にいる時と同じような体調の良さで過ごせました。

鳴海 イスラエルというと砂漠地帯のイメージがあつたので、泰平さんからこの話を聞いた時は、とても意外に思いました。食べる人も作る人も元氣になって、地球にもやさしい農業。日本も見習いたいところがたくさんありますね。

滝沢 ダイレクトにからだの基となる「食」について、日本人はもつと真剣に向き合っていく必要があるように思いました。私たちの健康ばかりでなく、地球の健康も考えた農業は「新しい時代」を迎えるうえで、とても大切なことだと思います。

鳴海 泰平さんも「存知の、物体などが心身に与える影響を数値で表す」「波動測定」という技術があります。この技術の第一人者と言われている山梨浩利先生によると、「自然の摂理に近いものほど、



山梨浩利先生の波動測定技術は、さまざまな分野において、心身の癒しや環境の改善などに活用されています。

心身に馴染み、良い影響を与えてくれる」のだそうです。

身近なところで穫れた旬の食べものや、自然栽培で育てた作物は波動数値が高く(＝自然の摂理に近く、心身が喜ぶ)、加工食品のように人の手を加え過ぎたもの、添加物の多いものは波動数値が低い(＝自然の摂理から遠く、心身が拒絶する)という結果が出ています。

これは「食」に限らず、私たちにもっとも身近な「衣」と「住」にも共通して言えることのようにです。

滝沢 精神世界における先駆者たちの多くは「新しい時代＝波動が高い」と認識しています。これは、山梨先生のおっしゃる「自然の摂理に近い状態」ですね。

現在は、新しい時代へ向けた過渡期の真つ只中だと思えますが、波動値のギャップが大きければ、それだけ移行にも無理がかかってしまいそうです。

「衣・食・住」のように、いちばん身近なところから、一人一人が波動の高い（＝自然の摂理に近い）状態になることを心がけることも大切なのではないのでしょうか。

鳴海 「波動を高める食」については、拙著『「小食・不食・快食」の時代へ』（ワニブラス刊）はせくらみゆき氏との共著をご参照いただくとして（笑）、「衣」と「住」についても、やはり「自然の摂理に近いもの」が波動を高めてくれるでしょうね。

滝沢 「衣」と言えば、タイのチェンマイに在住している、さとううさぶろうさんが作った「うさと服」があります。

うさぶろうさんは、もともとオートクチュールのデザイナーとしてヨーロッパを中心に活躍していたのですが、1991年に突然「啓示」を受けたことがきっかけで、麻や綿、絹といった自然素材だけにこだわった衣服を製作しています。

寸法には数霊を、デザインにも円、輪などを用いて自然界、宇宙を表現するなど、着ているだけで波動の高まっていくことがわかる素晴らしい衣服です。

鳴海 「うさと服」は、ちょっと触れただけでも、波動の高いことがわかります。

うさぶろうさんと「祈りの旅」を一緒させていただく度に、いろいろと面白い現象が起こるのも、自然界の摂理に合った生き方をなさっているからなのでしょうね。摩周湖で龍と蛇の雲があらわれた時も、うさぶろうさんが一緒でした。

滝沢 じつは、僕が「目にみえない世界」を身近に感じられるようになったきっかけは、うさぶろうさんなんです。2013年に初めて京都で会った時、早朝の神社参りに誘っていただきました。その時、僕



が「ここだけは行きたい」と思っていた神社が、いきなり、うさぶろうさんの口から出てきたので、とても驚いたんです。

それは「下鴨神社」で、京都に旅立つ前にある方から「あなたとは特別に縁が深い場所だから、必ずお参りしてくるよう」と言われていた場所だったんですね。下鴨神社には、いわゆる「異次元世界への入り口」があって、その結果を解くための方法も教えられていました。

後に、鳴海さんが2012年にアースヒーラーとしてのご宣託を受けた場所でもあることを知って、「あー、鳴海さんとも、やっぱり只ならぬ縁なんだ」と思いました。

鳴海 今さらながらですが、下鴨神社って、そういう場所だったんですね（笑）。

滝沢 「うさと」の想いは、みんながその服を着て、新しい未来、新しい宇宙をみんなで創ることをイメージしているそうです。

鳴海 「自然界の摂理」は宇宙の法則でもありますから、そうしたことを意識して作られている「うさと服」が、心身の波動を高めてくれることも納得ですね。

一人一人ができることで「新しい時代のひな形」を

鳴海 「住」という観点からは、泰平さんのドームハウスがまさに高波動ですよ。

第1章でも述べましたが、五角形と六角形という組み合わせは、地球の地殻構成でもあり、自然界の摂理そのものです。

滝沢 五角形と六角形を組み合わせてできるドームハウスは、気象変化や災害にも強い構造であると共に、球体という「意識の変容」を促す神聖幾何学の形でもあるんです。

材料には近郊の木材や、化学物質を使用しないヘンプ（大麻）の建材を使い、自然の摂理になるべく近い家を目指しました。

鳴海 それに、生活水は井戸水だし、燃料は薪ですよ。泰平さんが本書で紹介している「あーくんユニット」も導入されていて、地球にかける負担が驚くほど少ない。まさに、住んでいるだけで、人も地球も元気になる「新しい時代を象徴する住の形」のひとつだと思います。

滝沢 これまで「家を建てる」という行為は、地球に相当な負担をかけてきたと思うんです。新しい時代は、「波動が高い」＝自然の摂理に適っている「つまり」地球にやさしい技術」が大切になってくるのではないのでしょうか。

鳴海 エネルギー効率がよく、環境にも優しいドームハウスのような「住」の普及は、間違いなく必要でしょうね。

本書『目覚めた魂』で泰平さんが紹介してくれた「大麻」も、大地の波動を高め、地球環境を元に戻していくうえで必須のアイテムだと思います。

滝沢 地球という星の自然環境バランスを保つことは、人間が生命体として最後には作られた理由でもあるでしょう。

人類が、地球や他の生命体にとって「有用な存在」と思われるような技術が、

どんどん開発、普及されていくことが大切ですね。

鳴海 すぐにはドームハウスに住めない、という方は、炭やセラミックなどといった波動の高いものを、部屋や土地の四隅に置くことでも、周りの環境波動を高めることができます。こうしたことも、一人一人ができる「新しい時代」への種まきですね。



ハケ岳のドームハウス。五角形と六角形の組み合わせは、気象変化や災害にも強く「意識の変容」を促す神聖幾何学の形でもあります。

その理由は2つあって、1つは第1章で述べたように、今まで「神」だと思っていたお金が「紙」になってしまいう日に備えるため。もう1つは、農を通して自然に触れることで、人は本来自然の一部なんだ、という感覚を思い出すためです。

栽培方法は、無農薬、無化学肥料の「自然栽培」で、外から持ち込んだ肥料はいつさい使用せず、その田畑で出た雑草などを使用します。「その場にあるものだけで栽培できる」となれば、「どこでも、誰でもできる農法」として、各地で活用できるでしょう。

またそこに集う人たちは、価値観の似ている人も多いため、本当の仲間づくりにもなると思います。中には過去生からの約束を思い出す人もあらわれるのではないのでしょうか。

鳴海 一人一人のできることが、そのまま新しい時代の「ひな形」になる。まさに、諏訪湖畔で受け取ったメッセージが、どんどこ形になっていきますね。



ハケ岳では農業生産法人「ハケ岳ピースファーム」が誕生。2015年9月24日に諏訪湖畔で受け取った「想いを形に。小さくてもよいから、まずは身近なところからひな形を」というメッセージは、確実に具現化されています。

新しい時代の判断基準は「楽しさ」「ワクワク」

鳴海 今回、一緒に本作りをさせていただいて、泰平さんの博識ぶりには改めて感心させられました。何を訊いても、その場で凄情報量の答えが返ってくるし、「天下泰平」ブログには、そういった情報がとてもわかりやすくまとめられています。文章を書くことは、もともと得意だったんですか？

滝沢 いえいえ、書くことはまったく得意じゃありませんでした。というか、子どものころから「一番苦手なものが『作文』」笑。「じゃあ、なんでブログを書けるの？」と、よく訊かれるんですが、これはたぶん「書かされる」か「(自分で)書く」かの違いじゃないでしょうか。

今でも「これについて書いてほしい」と言われると、まったく書きませんが、自発的に「これについて書きたい」と思ったら、イメージやキーワードが浮かんでくるんです。

鳴海 自ら「〇〇したい」と思っていることは、効率がいいし、何と言っても楽しいですよ。この「楽しい」という気持ちや、ワクワク感というのは、生まれてくる前に魂が決めた「今生のシナリオ」の道標だと思っんです。

滝沢 たしかに、そうですね。現在、ハケ岳で進行中の農業プロジェクトや、祈りの旅、コラボ講演会も「楽しい、ワクワク」から始まっています。

鳴海さんは、退行催眠で「今生のシナリオと、ワクワクの関係」を確認してこられたんですね。

鳴海 はい、10年ほど前に退行催眠を体験して、ちょうどだけ「あの世」をのぞいてきました(笑)。

ほとんど記憶を遡っていくと、私たちは何度かこの世とあの世を行ったり来たりしている「魂」の存在であることがわかります。そして「この世」へ来る前に、かなり綿密な「この世での計画書」今生のシナリオを立ててきているようなんです。

滝沢 ワクワクしたり、楽しいと感じることが、シナリオに書かれたことであると。

鳴海 基本的には、そういうことだと感じました。

中には「苦手だな」と感じることを通しての学びもあるようですが、シナリオにあることは、必要なタイミングで必ず体験するようになっていきますから、あまり無理をしようとするとか、何かになろうと頑張る必要はないようです。

イメージとしては、大きな川の流れが「シナリオ」で、無理をして頑張ったり、悩んだりしているのは、そこに浮かんでいる船を「生懸命、手で漕いでいるような感じ」かもしれませんね。

滝沢 たしかに、文章を書くことになったのも、農業や講演会を始めることになったのも、自然な流れの中で起こったことでした。興味のあることしかしないから、そのための情報収集も楽しいし、ワクワクしながらやっています。知らず知らずのうちに、シナリオに沿った人生を歩んでいたと思うと、「ワクワクが道標」ということが、とても腑に落ちますね。

鳴海 退行催眠のセッションで「光の存在からアドバイスをもらおう」というのがあって、そこで光の存在から言われた言葉が「Everything is O.K.」や「Let's enjoy」だったんです。なんで英語？って思いましたが（笑）「すべてはオーケー。楽しみましょう!!」っていうことですよ。

私たちは、今、この瞬間の「楽しい」「ワクワク」という感性に、もっと身を委ねてしまつていいのかもしれない。

滝沢 「魂の目覚め」には、「楽しい」「ワクワク」が重要であり、それが「新しい時代への道標」にもなる。本書で提案してきたいくつかの情報も、こうした感覚を大切にしながら、参考にしていただけたら嬉しいですね。

「新しい時代」は、どうやら素晴らしいものになりそうです。



滝沢泰平 (たきざわ たいへい)

1982年宮城県仙台市生まれ。「半農半X」を個人と企業へ普及させるために、2012年やつは株式会社、2016年にハケ岳ピースファーム株式会社を設立。ハケ岳南麓を拠点に未来型の村と自給自足できる社会づくりを目指す。月間100万アクセスのWebサイト「天下泰平」ブログ執筆者。著書に「レインボーチルドレン」これから10年世界を変える「過ごし方」、共著に「こはアセンション真つ只中」(すべてヒカルランド)などがある。

撮影/高橋聖人

第1章 「新しい時代」は、もう始まっている

滝沢泰平

籠を飛び出す鳥

- ① 半歩遅い目にみえる世界の夜明け
- ② 神が紙となり、やがて神は紙となる
- ③ 1万円札の原価は、たった22円の紙
- ④ 「信仰や神とは何か？」
- ⑤ 違いは自立している人か、依存している人か

鳴海周平

目にみえない世界で起こった3つの出来ごと「天使のラッパ」は、段階をふんで変化する五感と六感も「融合・統合・調和」する時代

第2章 すべてが「融合・統合・調和」する世界へ

対談 滝沢泰平 × 鳴海周平

摩周湖の龍が教えてくれた「新しい世界」いつも違和感を感じていた幼少期ヒーリングは、エネルギーの調整ヒーリングから、アースヒーリングへ2015年 時代の節目で起こった出来事の背景にあるもの

第3章 「新しい世界」のために出来ること

鳴海周平

心配や不安は、もう必要ない
鳳凰と龍が統べる時
一人一人が「ひな形」となる世界へ

今号の対談も掲載されています!!

目覚めた魂
あなた自身が「パワースポット」になる方法

ワニプラス ¥1,512 (税込)

滝沢泰平

日本版キブツに向けて

- ① 「目にみえる食」から「目にみえない食」に意義を向ける時代
- ② 古代の叡智と現代の叡智を融合させた「あ・うん ユニット」
- ③ 大麻は人間にとって悪魔の植物となるのか救世主となるのか
- ④ 「日本版キブツを全国に」

第4章 「楽しい」「ワクワク」が新しい時代の道標

対談 滝沢泰平 × 鳴海周平

「祈りの旅」がひも解く新しい時代
自然の摂理は「神」そのもの
過渡期に必要なのは、心身の「波動」を高めること
一人一人ができることで「新しい時代のひな形」を
新しい時代の判断基準は「楽しさ」「ワクワク」

お近くの書店またはインターネットでもお買い求めいただけます。

「祈りの旅」メンバーの4人で、旅の報告を兼ねた講演会を開催します。

- 日 時 2016年12月8日(木) 14時~17時30分
- 場 所 東京都千代田区二番町 2番地 東京グリーンパレス
- 参加費 6,000円(にんげんクラブ会員 5,000円)

お申込・お問合せ
にんげんクラブ 03-3239-8271

他にもさまざまなイベントを開催しています。
最新のスケジュールは、やつはさん、エヌ・ピュアのホームページでご確認ください。



長 典男 さん



滝沢 泰平 さん



鳴海 周平

やつは株式会社

<http://www.yatsuha.com/>

株式会社エヌ・ピュア

<http://npure.co.jp/>